

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	保育内容指導法（造形表現）					授業形態	演習			
科目コード	750072	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	園田 博一							ICT活 用	○	
授業概要	<p>本授業では、幼稚園教諭や保育士の養成を目的としている。幼児教育の教育者として必要な「造形表現」に関する基礎的な理解を得るための講義である。幼児期の造形表現の特性を知り、子どもの実態を学ぶ。実際に造形表現を体験することで多様性を学ぶ。実際の作品例を通して、多様な視点、柔軟な対処を学ぶ。指導の範囲と援助の意味を特に深く考える内容で授業を進める。</p>									
関連する科目	教科教育法（図画工作） 図画工作演習、図画工作									
授業の進め方 と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・使用テキストにより幼児期の造形表現についての特徴を学修する。 ・子どもの表現を理解し、発達段階の理解につなげる。 ・造形における多様な表現を体験し、表現指導の幅を広げる。 									
授業計画 【第1回】	<p>オリエンテーション、授業者紹介、自己紹介、授業の受け方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中の造形表現とは何か。 									
授業計画 【第2回】	<p>今日の幼児造形教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における幼児画の歴史の変遷を学修する。 									
授業計画 【第3回】	<p>幼児造形表現の発達と様式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作例を提示しながら、年齢と対応した表現の在り方を解説する。（スクリブル、頭足人など） 									
授業計画 【第4回】	<p>幼児画の特徴（様式）、構図と描法 発達体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作例を解説しながら、幼児画について学ぶ。（レントゲン画、展開描法、多視点画など） 									
授業計画 【第5回】	<p>描画材料と素材 演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての身近な素材を取り上げる。紙とクレヨン、鉛筆等。 									
授業計画 【第6回】	<p>描画材料と素材 演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を使った表現を体験する。筆、フィンガーペインティングを体験する。 									
授業計画 【第7回】	<p>幼児造形教育の目標と内容① 造形表現の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを使い解説していく。 									
授業計画 【第8回】	<p>幼児造形教育の目標と内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現を育む人になるために、豊富な事例を解説し、深化を図る。 									
授業計画 【第9回】	<p>幼児造形教育の目標と内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形を楽しむための造形とは ・受講者が考えた、造形についての取り組みを実現化する。 									
授業計画 【第10回】	<p>幼児造形教育の実際①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンガーペインティングを使った作品作りに取り組む。 									

授業計画【第11回】	幼児造形教育の実際② ・新しく、ローラーを使ったペインティング表現を試みる。
授業計画【第12回】	幼児造形教育の実際③ ・室外で収集した、落ち葉を使っての造形表現を行う。 ・落ち葉の貼り絵、色づくり。
授業計画【第13回】	幼児造形教育の実際④（造形遊び） ・校庭の砂場で、どろ団子づくりに挑戦する。新聞紙を使った造形遊びの体験をする。
授業計画【第14回】	幼児造形教育の実際 ・保育案・指導案の書き方を学ぶ、オリジナル題材を基に指導案を書く。
授業計画【第15回】	幼児造形教育の実際 ・保育案・指導案の書き方を習得する。 ・反省と成果をレポートとしてまとめる。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に基づいて、幼児造形表現の目標と内容を理解する。 ・幼児の造形表現の特徴について具体的な作品を通して理解する。 ・幼児画と児童画と大人の絵画の違いを認識する。 ・幼児造形教育の方法の中で援助と指導の在り方を深く理解する。 ・実際に活動し、制作する中で材料や用具、技術について学ぶ。 ・指導案の作成に取り組む。
学位授与の方針（DP）との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	遊びについて思い出し、体験をまとめておく。 幼稚園、保育園での体験をレポートとしてまとめる。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	学修したことを基に実際に造形表現してみる。生活のなかで試行してみる。（約1時間）
課題に対するフィードバック	テキストに沿って進める授業で、学んだことを要約整理するレポートの評価。実習で学んだことの理解度の評価を対象とする。
評価方法・基準	・実技課題への積極的取り組み、提出課題の評価及びレポート等、提出物の採点による方法でその割合は、授業中の参加態度（質問や発問を含む制作意欲）：40%、提出課題：30%、レポート：30%とする。
テキスト	・「保育をひらく造形表現」 槇英子 2415円 大学生協で販売、購入すること。
参考書	『チゼックの美術教育』w・ヴィオラ著（黎明書房） 『美術による人間形成』ローエンフェルド 『芸術による教育』ハーバード・リード 『保育内容「表現」』平田智久・小林紀子・砂上史子編 ミネルヴァ書房：2200円
備考	※受講生は、実技演習ができる服装が望ましい。（準備内容については、事前に予告する。） 関連授業：子どもと手作り遊び、教科教育法（図画工作）